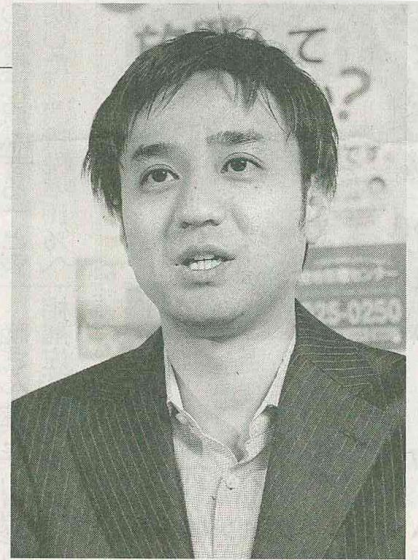


訪問は1000軒超、空き家対策NPO代表

上田 真一さん (32)



うえだ・しんいち

1984年埼玉県生まれ。2007年オハイオ州立大卒、ベトナムの会社へ就職。帰国後、リクルートを経て父の経営する不動産会社に入り、2013年、空家・空地管理センター設立に関わる。15年1月から現職

これまでに1000軒を超える空き家へ足を運び、管理や処分を支援してきた空き家問題のスペシャリストだ。空き家対策特別措置法の全面施行から1年。団塊世代の高齢化などで問題の深刻化が予想されるなか、代表を務めるNPOの活動範囲が広がっている。

埼玉県所沢市で不動産業を営む父の下で育った。所沢市は2010年、全国初の空き家条例を制定した自治体。NPOの活動を始めた当初は「空き家へ入った途端に床が崩れてケガをしたり、隣家の住人から苦情を言われたり苦勞の連続だった」。米国の大学で新興国経済を学んだ後、ベトナムの旅行会社に入社1年目から新規事業

の責任者になり、異国の地で汗をかいた。この経験が空き家管理事業に生きている。

業務を徹底的にそぎ落としてボランティアでも活動できるようにし、月100円という破格の低料金で空き家を管理する仕組みを築いた。不法侵入を防ぐため、定期管理の告知看板を立て、隣家へ挨拶して理解を得る。ここまで低料金にしたのは、「まず空き家を放置させないことを『そ大事』と考えるからだ。所有者が住めないなら貸したり、売ったりすることが空き家問題の『出口』だが、まだまだゴールは遠い。『難しい仕事だからこそアイデアが生まれる』とパイオニアは表情を引き締め

(堀大介)